



企業局概要

沖縄の水

沖縄県企業局

沖縄の自然と水道

自然環境

沖縄は160の珊瑚礁の島々からなる島嶼県で、大きな河川や湖などの水源に恵まれず、また、降雨量が年や季節によって大きく変化し、水を安定的に確保することが困難な自然環境にあります。

そのため、先人たちは昔から稀少な水の確保に知恵をしぼり、努力を重ね、また、その中から水に対する信仰や芸能、伝統行事など沖縄独特の文化を育ててきました。

戦前の水道

戦前は、那覇市など一部の市町村に水道が引かれていましたが、ほとんどの地域で生活用水を井戸、天水、泉等に依存していました。

人々は、十分な水道施設がないため、夏場の日照り、干ばつなどに悩まされ飲み水の確保に苦労しました。

現在の水道

戦争によって灰じんに帰し、戦後しばらくの間、水道の空白時代がありましたが、琉球政府が設立された1952年(昭和27年)以降、琉球政府及び米国民政府の補助金等によって水道が次第に普及し始め、1960年(昭和35年)頃には、那覇市、コザ市を始めとする8つの市町村水道と、局所的な簡易水道を合わせると約200の水道が誕生し、琉球列島において人口の約40%の人々に水を給水していました。一方、米軍は1950年(昭和25年)陸、海、空、海兵の四軍が独立して運営していた軍水道を全島統合上水道として一元化し、余剰水を基地周辺の市町村へ分水していました。

ところが、復興の進展に伴う人口増加、都市への集中が激しくなり、1950年代後半に入ると民間地域の水不足が深刻な問題になってきました。そこで、米国民政府によって全島統合上水道を基にした民間地域を含めた広域水道構想が検討され、1958年(昭和33年)沖縄県企業局の前身である琉球水道公社が設立されました。

琉球水道公社は、米軍が管理する全島統合上水道から分水を得て市町村へ給水を行っていました。

1972年(昭和47年)の本土復帰とともに、琉球水道公社の財産等を沖縄県企業局が引き継ぎ、水道用水供給事業がスタートしました。

劣悪な水事情の解消及び将来の水需要の増大に対処するため、第1次～第3次沖縄県振興開発に基づき、水源開発や水道施設の整備を図ってきました。その結果、平成6年度から断水のない状況が続いていますが、人口の増加等により水需要は伸び続けているものと見込んでおり、沖縄進行計画に基づき引き続き、水源開発や水道施設の整備を図っていくことにしています。



企業局の事業

沖縄県企業局は水道用水供給事業と工業用水道事業を行っています。

水道用水供給事業

家庭や学校などの地域社会に直接給水を行うのは市町村の事業です。

しかし、ほとんどの市町村は独自の水源を持たないことから、企業局がダムや河川などから取水し浄水処理した上でこれらの市町村に水を供給しています。

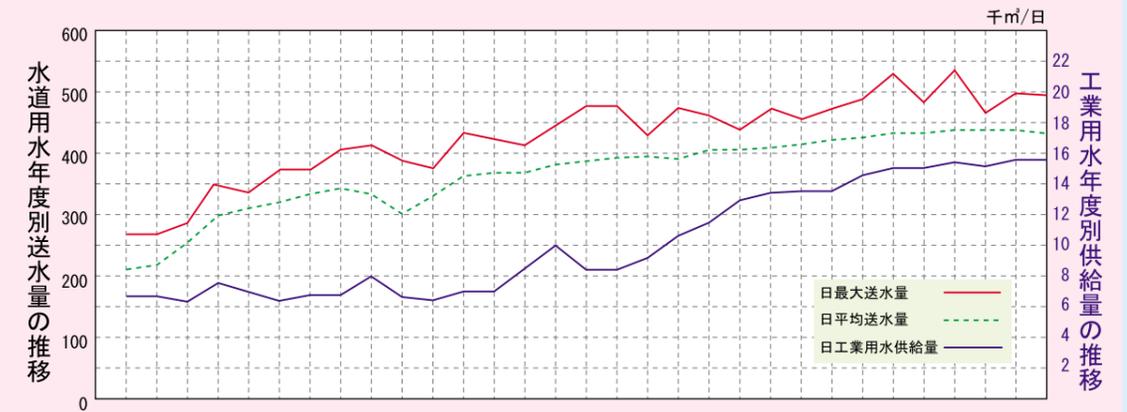
企業局は現在、沖縄本島北部の比較的水源に恵まれた国頭村、大宜味村、東村、宜野座村を除く本島29市町村と伊江村に1日当たり約41万m³(平成14年度)の水を供給しています。

工業用水道事業

企業局は、本島の産業振興を図るため工業用水道事業を行っています。

これは本島北部のダムの水を久志浄水場で沈でん処理(一次処理)した後、主に中南部の工場へ送水し、企業の生産活動を側面から支援するもので、現在、金武湾や中城湾港新港地区及び糸満市の工業団地等にある72の工場に1日当たり約1万5千7百m³(平成14年度実給水量)の工業用水を供給しています。

供給量の推移



年 度	昭和47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
日最大送水量 千m ³ /日	253.0	261.3	278.9	348.6	344.4	375.5	377.5	399.4	407.6	388.5	381.2	428.0	421.2	406.1	436.9	469.5	468.3	420.4	459.4	458.9	438.5	474.9	450.0	455.7	479.1	514.0	470.2	517.7	470.3	494.1	496.0
日平均送水量 千m ³ /日	208.8	218.4	250.3	300.0	302.5	316.2	329.5	340.5	337.3	297.6	328.6	351.9	360.4	382.5	379.8	385.2	395.8	380.0	399.0	387.5	399.0	405.3	403.8	408.8	410.0	415.4	421.1	420.1	422.2	422.5	413.5
日工業用水供給量 千m ³ /日	6.9	7.0	6.5	7.7	6.6	6.2	7.1	7.2	8.0	7.1	6.9	7.5	7.7	8.5	10.1	8.5	8.4	9.1	10.7	11.3	12.7	13.0	13.0	14.1	14.1	15.3	15.4	15.7	15.5	15.7	
事業所数	1	2	1	1	2	7	10	12	14	14	15	17	18	24	24	24	26	26	32	34	36	37	44	51	61	63	62	66	67	70	72

沖縄本島の水事情

沖縄県の人口は、終戦後の1946年(昭和21年)に約51万人であったのが、本土復帰時の1972年(昭和47年)に約96万人、2002年(平成14年)には約133万人になり、復帰直後と比べると約2.6倍に増えています。

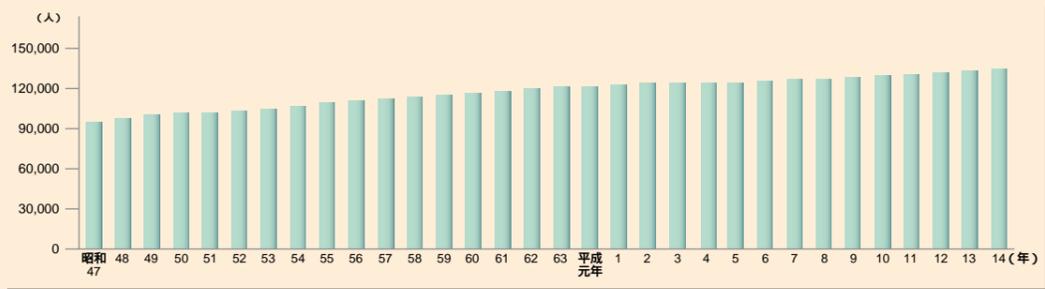
沖縄本島の水源地は、北部・中部にあります。水源地の大部分を占める北部の河川水、ダム水を人口の90パーセント以上が集中する中・南部の消費地へ送っているのが特徴です。

沖縄の気候は、亜熱帯海洋性で、気温は平均23.4度と1年を通じて温暖です。年平均降水量は約2,123ミリメートルで、全国平均1,718ミリメートルを上回っており、全国でも比較的雨量の多い地域です。

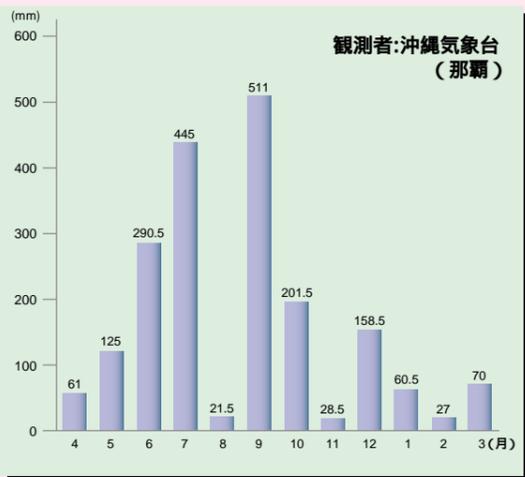
しかし、人口密度が高いために年間の1人当たり水資源賦存量(降水量から蒸発散によって失われる量を差し引いた量に、当該地域の面積を乗じた値)は、約1,973m³/年・人で、全国平均約3,337m³/年・人の約6割にすぎません。

また、梅雨期、台風期、秋雨期、東シナ海低気圧等により年間を通して降雨がありますが、そのうち、約50パーセント以上が5,6月の梅雨期と8,9月の台風期に集中しているため、夏場に台風が少ないと渇水になりがちで、不安定な水事情となっています。

人口の推移



月別平均降水量(平成14年度)



年間平均降水量(平成14年)



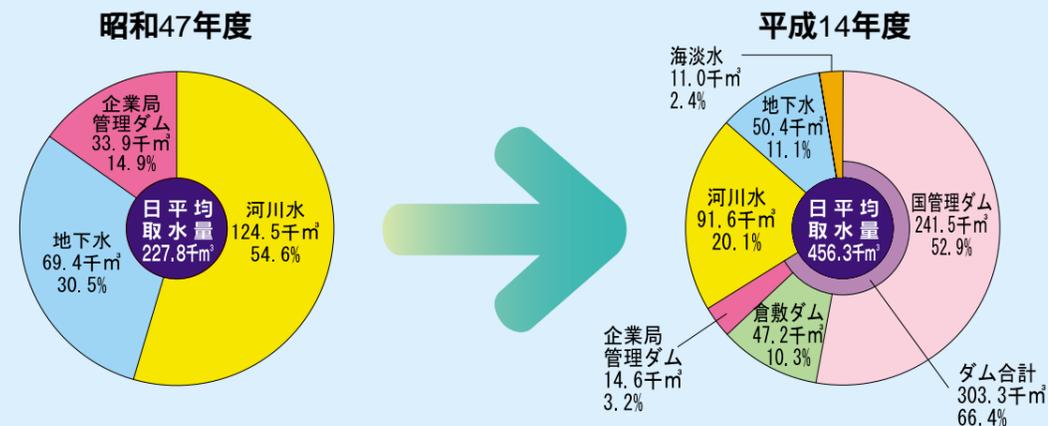
座津武川
沖縄の河川は、本土の河川と比較すると勾配が急で流域面積が小さいという特長があります。

参考:平成15年版「日本の水資源」、平成14年度版「水量記録資料集」、平成14年度版「沖縄統計年鑑」より

水源別取水量

企業局の水源は、ダム、河川水、地下水、海水淡水化水の4種類からなっています。そのうち、ダムからの水が最も多く、1日当たりの取水量45万6,300m³(平成14年度実績)の66.4%に当たる30万3,300m³となっています。次に多いのが河川水で9万1,600m³(20.1%)、それに地下水が5万400m³(11.1%)、また、平成9年度から供用開始された海水淡水化水は1万1,000m³(2.4%)となっています。

昭和47年度と比べると取水量が約2倍に増え、本土復帰後多くのダム開発が進められてきたことから、水源別取水量の割合も大きく変わってきています。



市町村別供給量

(単位: 千m³)

区分	平成14年度		給水開始年月日	区分	平成14年度		給水開始年月日
	平成14年度	構成比(%)			平成14年度	構成比(%)	
那覇市	40,552	27.3	昭和47年5月15日	与那城町	1,267	0.8	"
沖縄市	20,289	13.5	"	西原町	4,384	2.9	"
宜野湾市	10,710	7.0	"	勝連町	1,588	1.1	"
浦添市	14,203	9.3	"	佐敷町	1,431	1.0	"
具志川市	8,394	5.5	"	玉城村	1,252	0.8	"
読谷村	4,445	5.8	"	名護市	1,897	1.3	"
南部水道企業団	7,324	4.8	"	知念村	718	0.5	昭和49年12月15日
嘉手納町	1,739	1.2	"	本部町	217	0.2	昭和50年6月10日
北谷町	3,802	2.5	"	今帰仁村	504	0.3	昭和50年7月12日
北中城村	3,704	2.2	"	北中城村	6,818	4.5	昭和47年5月15日
石川市	2,750	1.8	"	伊江村	500	0.4	昭和52年2月1日
豊見城市	5,811	3.7	"	恩納村	2,514	1.6	昭和52年7月20日
与那原町	1,955	1.2	"	金武町	1,192	0.7	平成元年10月1日
中城村	1,764	1.1	"	合計	151,724	100.0	

注) 南部水道企業団は、東風平町、具志頭村、大里村、南風原町で構成されている。

水源と水道施設

沖縄本島は南北に細長く、北部地域の水源地と中・南部の消費地が遠く離れていることから導水管等の管路が長く、そのため増圧ポンプ場、調整池等の多くの水道施設が設置されています。また、河川水や地下水から取水するためのポンプ場が多いのも特徴です。



長田川取水ポンプ場(読谷村)



山里第1調整池(沖縄市)



漢那水管橋(宜野座村)



凡 例	
▲	ダム
□	浄水場
▲	取水ポンプ場
▲	増圧ポンプ場
●	調整池
●●	井戸群
□	水質浄化施設
■	硬度低減化施設
—	導水管
---	導水路トンネル
----	調整水路トンネル
—	市町村境界線

施設数	
施設	数
ダム	9
浄水場	5
取水ポンプ	24
増圧ポンプ	17
調整池	33
井戸群	22井
海水淡水化センター	1
水質浄化施設	1

ダムのあらかし				
名称	利水容量 (千m ³)	開発水量(1日当たり)		
		水道用水 (m ³)	工業用水 (m ³)	
国				
福地ダム	44,700	86,800	31,200	
新川ダム	600	13,200	4,800	
安波ダム	12,600	55,200	19,800	
普久川ダム	950	19,900	7,100	
辺野喜ダム	1,600	15,500	5,500	
漢那ダム	6,650	11,500	-	
計	67,100	202,100	68,400	
県				
倉敷ダム	5,900	71,800	-	
金武ダム	660	19,000	-	
山城ダム	1,190	11,500	-	
計	7,750	102,300	-	

沖縄工業用水道事業一般平面図

工業用水道事業の概要

沖縄工業用水道事業は、水源を本島北部の多目的ダム群に求め、給水区域となる17市町村(名護市、宜野座村、金武町、石川市、具志川市、沖縄市、与那城町、勝連町、北中城村、中城村、西原町、南風原町、与那原町、佐敷町、大里村、東風平町、糸満市)に立地する事業所に対し、工業用水の供給を行っています。



中城湾港工業団地

企業局の施設

名護浄水場

名護浄水場は、本島北部の名護市にあり、昭和50年に1日当たりの処理能力1万4千m³の施設として建設されました。その後の水需要に対応するため、平成7年度には1日当たり2万7千m³の施設となっています。

水源は、主に平南川、源河川で、名護市を始め今帰仁村、本部町、伊江村(海底送水管:5,226m)、恩納村などに供給し、北部地域の中核的水道施設として位置づけられています。



久志浄水場

久志浄水場は、名護市東海岸にあり、1日当たりの処理能力39万6千m³を有する県下最大の上水道と工業用水道の共同施設となっています。

供用開始は昭和50年度で、水源は国管理の北部ダム群及び北部河川で、当浄水場で沈でん処理した水は、一部を工場へ工業用水として供給するとともに、石川、西原浄水場へ上水道の原水として送水しています。



石川浄水場

石川浄水場は、沖縄県企業局の現在ある浄水場の中では一番古く1967年(昭和42年)に整備され、当時の一日の処理能力は7万5千m³でした。

昭和50年に規模が拡張され、いまでは一日15万m³の水道用水を供給することができます。

久志浄水場の処理水と、漢那、金武、山城の各ダムと北部河川水を水源とし、石川市をはじめ主に中・南部の市町村へ供給しています。



西原浄水場

西原浄水場は、本島中部の西原町にあり、昭和52年6月には一部供用を開始し(40,100m³/日)、その後の4期に渡る工事を経て、昭和55年3月には現在の1日当たり16万5千m³の処理能力を有する浄水場となっています。

福地ダム等の北部ダム群を水源とし、久志浄水場で沈でん処理された水を、西原浄水場で浄水処理して、那覇市、浦添市をはじめ、中・南部地域の13市町村に供給しています。



北谷浄水場

北谷浄水場は、本島中部の北谷町にあり、一日当たり21万4千m³の送水能力を持ち水道用水では県下最大規模の浄水場です。また、昭和63年度から、県内で唯一の高度浄水処理施設の建設が進められ、平成4年度にオゾン・活性炭処理施設が一部供用開始されるなど、平成6年度には全施設が完成しました。

さらに、水道水の安定供給を図るうえで海水淡水化施設が平成5年度から着工され、平成8年度に完成。翌年の4月から一日当たり4万m³の海淡水をつくる国内最大の海水淡水化施設として全面供用開始しました。水源は、西系列河川、中部河川、嘉手納井戸群、倉敷ダム及び海水淡水化水で、各処理工程を経て浄水された水と海水淡水化水をブレンドして、中・南部の市町村へ供給しています



水道施設管理事務所

水道施設管理事務所は、本島中部の沖縄市に位置し、企業局の水道施設や工業用水道施設の維持管理を行っています。通常業務として、ポンプや機械設備の修繕、導水管路の移設、緊急を要する漏水の調査・復旧、家用電気工作物・計装設備・薬品注入設備等の修繕を行っています。

当事務所は、水道用水や工業用水の安定供給を行うための潤滑油としての、業務を行っています。



水質管理事務所

水質管理事務所は、北谷浄水場内にあり、安全で安心して飲める水を供給するため、浄水の水質検査及び水源となっているダム水や河川水、地下水などの原水の検査を行っています。

また、久志、石川、西原の各浄水場に駐在を設置し、各浄水場で生産された浄水を検査し、安全性を確認しています。



水管理センター

水管理センターは、平成4年度に県庁12階に設置されました。

企業局の水に関するさまざまな情報を管理し、各市町村に必要な水量を効率的に供給するため、各浄水場の中枢としての業務を行っています。

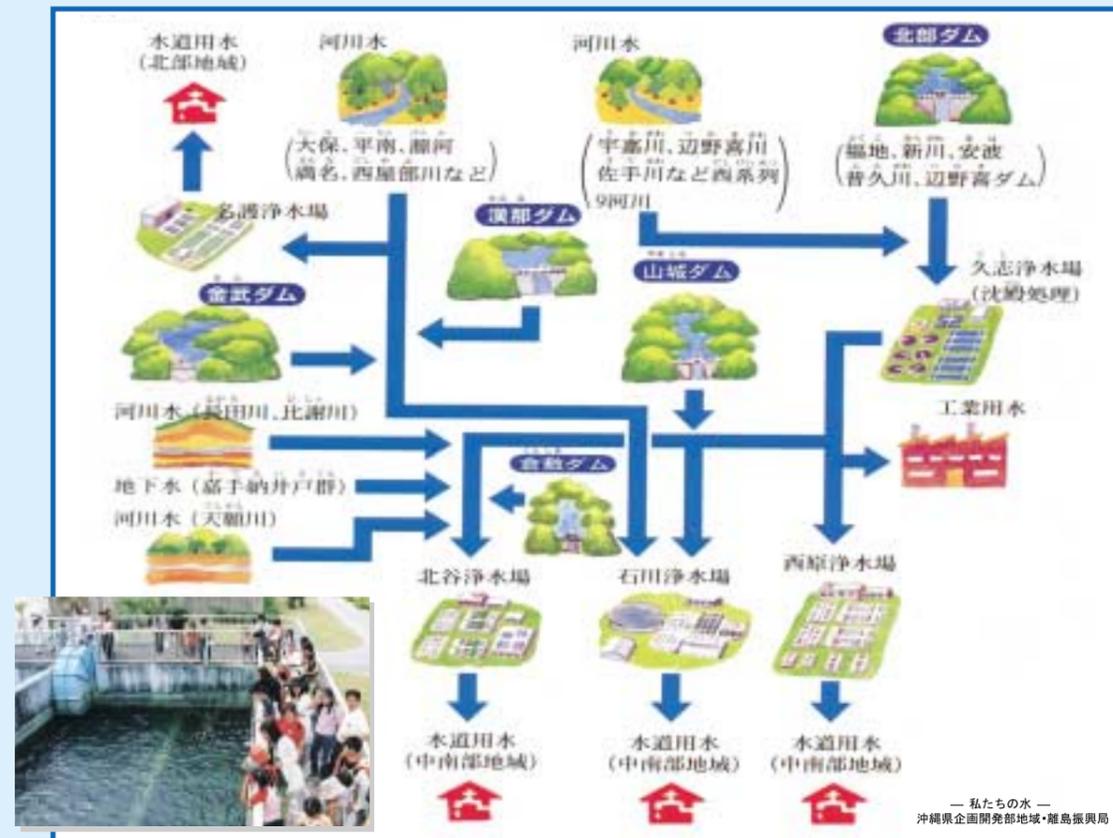


水道水はどこから来るの？

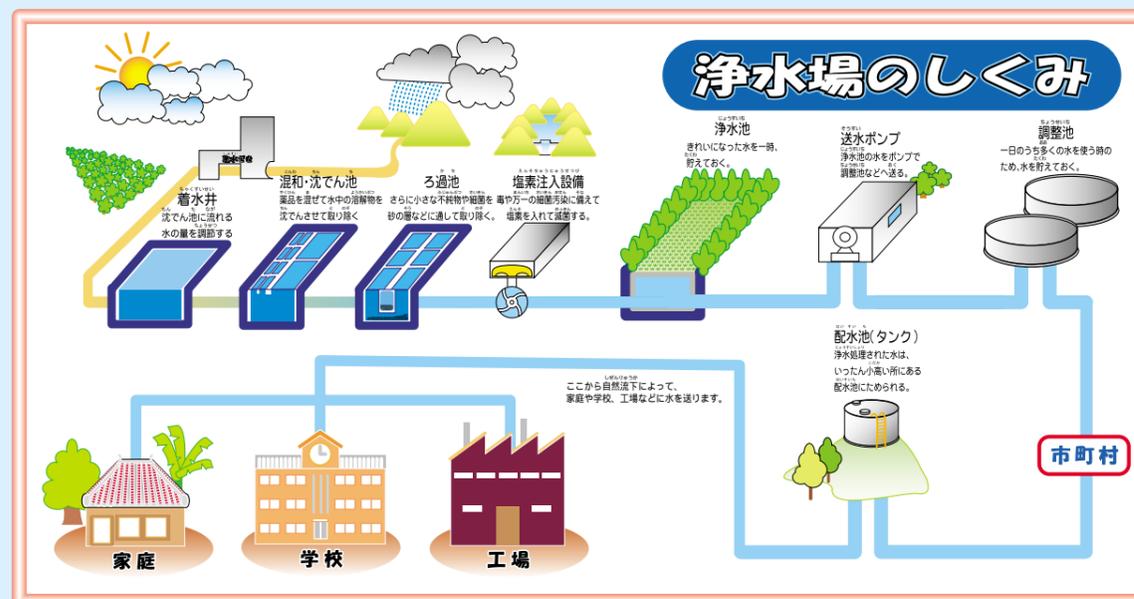
私たちは、水道の蛇口をひねるだけで、きれいな水を自由に使うことができます。さて、その水はどこから来るのでしょうか？

沖縄本島では、中北部の河川やダムから浄水場に運ばれ、その後、各市町村の配水地を經由して私たちの学校・会社・家庭へと届けられるのです。

企業局では、引き続き「安全でおいしい水」の安定供給に取り組んでいきます。



— 私たちの水 —
沖縄県企画開発部地域・離島振興局



水道水は
どこからくるの？

さらに進んだ水づくり

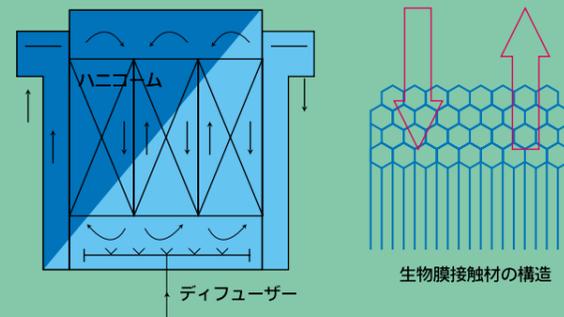
高度浄水処理.....北谷浄水場

北谷浄水場の水源の一部になっている比謝川、長田川、天願川の水質は、悪化が懸念されます。そのため、特に北谷浄水場では沈でん、ろ過、塩素処理の工程で行われる通常の浄水処理に生物処理、オゾン処理、粒状活性炭処理の3つからなる高度浄水処理施設を導入し、より安全でおいしい水づくりに努めています。

■生物接触酸化池

河川のもつ自浄作用を浄水処理に応用し、好気性の微生物(バクテリア)によりアンモニア性窒素などの有機物を除去し、原水を処理します。

ハニコム(ハチの巣)状の接触材に生物膜を付着させ、循環させることにより河川の自浄作用に匹敵する浄水効果があります。

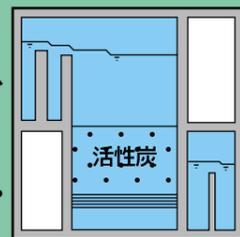


■オゾン接触池

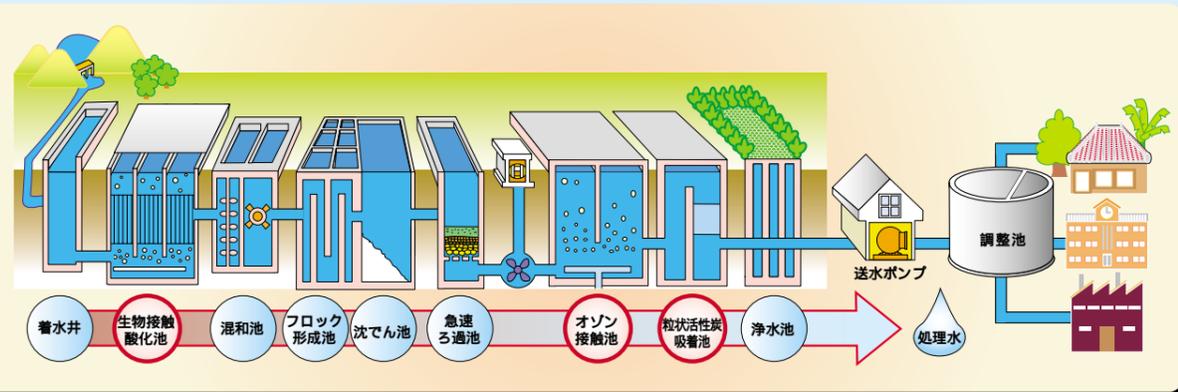
オゾンを効果的に沈でん水と接触させるため、散気管からオゾン化空気を噴出させ、オゾンの酸化作用によりトリハロメタン生成の原因となる有機物を分解します。

■粒状活性炭吸着池

オゾン処理後、活性炭のもつ優れた吸着能力を利用して汚濁水のおいや色を取り除くとともに、オゾン処理で分解された有機物を吸い取って除去します。



高度浄水処理の流れ



硬度低減化施設.....北谷浄水場

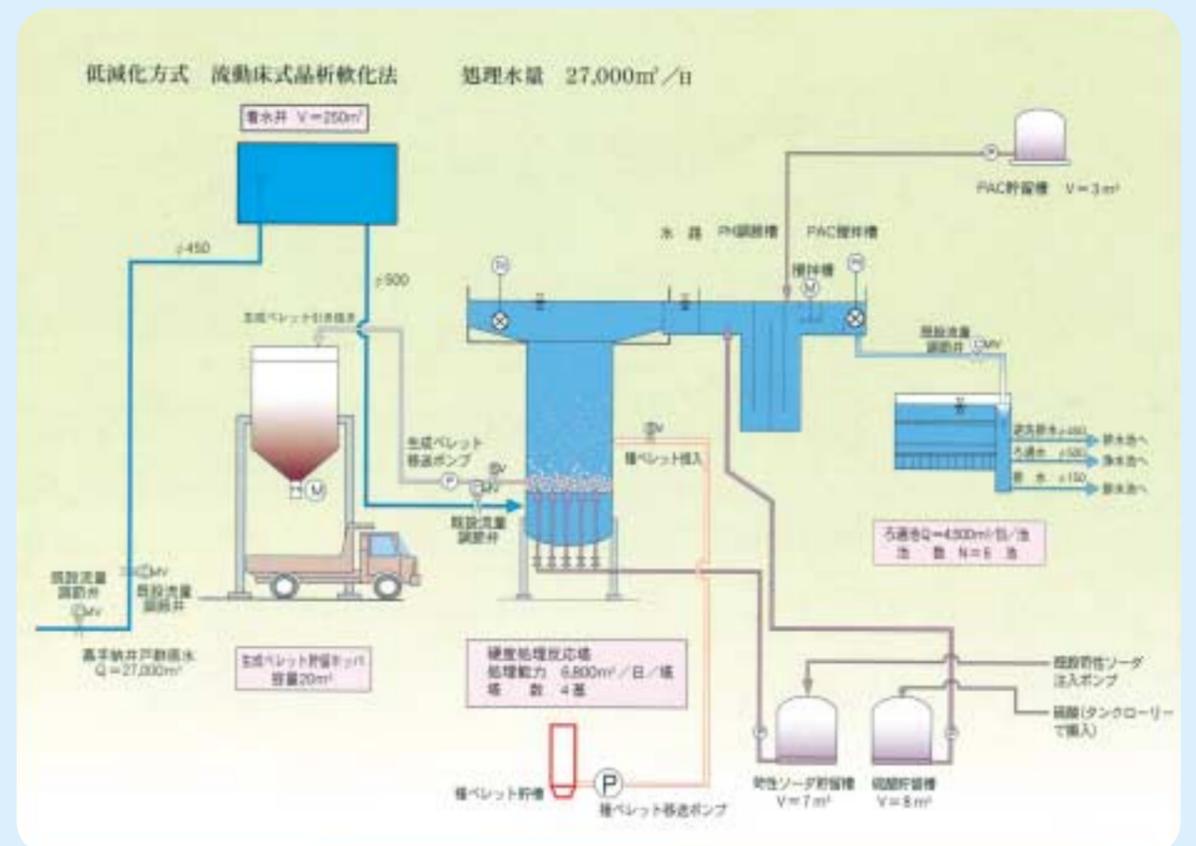
沖縄本島中部地域にある嘉手納井戸群や天願川、比謝川などの水道水源は、一帯の石灰岩質の影響を受け、硬度が高くなっています。これらの水道水源は北谷浄水場に導水され水処理されますが、これまで硬度は除去されませんでした。そのため、北谷浄水場系統の送水区域は、硬度の高い水質となっていました。

そのため沖縄県企業局では、硬度平準化対策の一環として、硬度低減化施設を整備することにしました。同施設は平成14年度に完成し、平成15年度から硬度を低減した水を供給することが可能となりました。この施設の運用によって、北谷浄水場がカバーするおよそ45万人余の県民に、より「おいしい水」を提供できるようになります。



平成15年6月供用開始

硬度低減化施設の流れ



海水淡水化施設.....海水淡水化センター

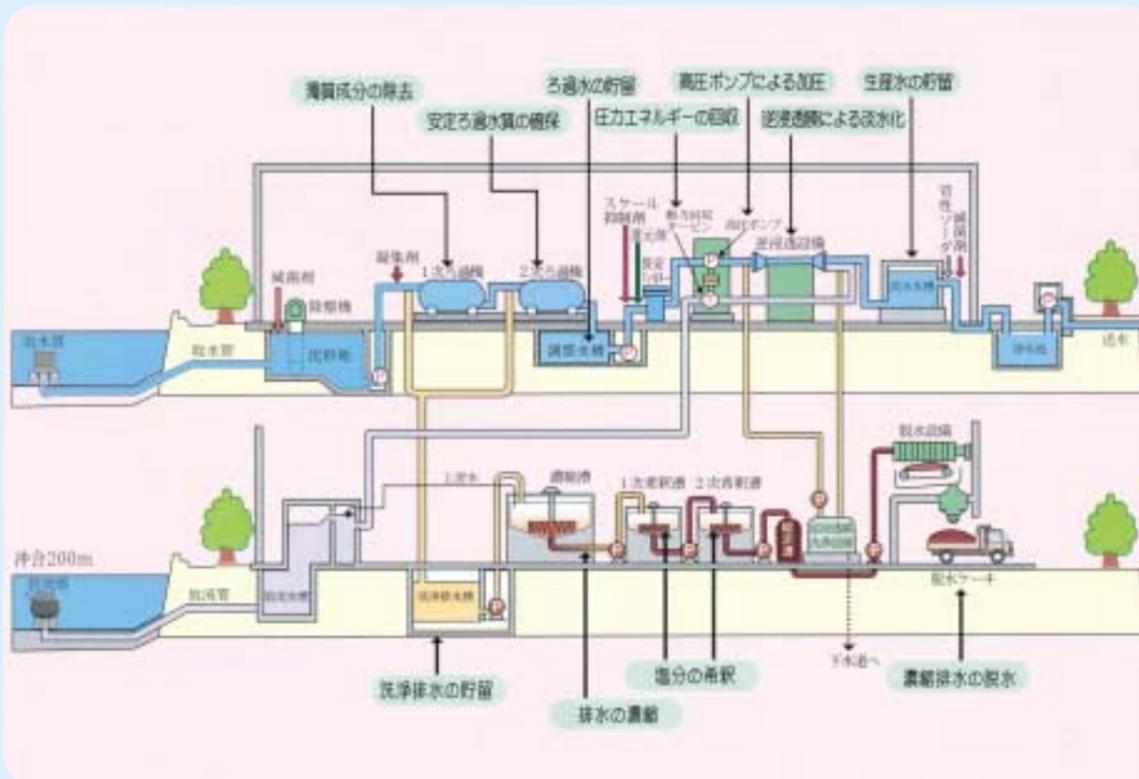
県企業局では、これまでダム開発をはじめとする水源開発を進めてきましたが、人口や観光客の増加、気象条件の変化によっては今後も水不足が予想されます。そこで、企業局では無尽蔵にある沖縄の美しい海から天気によらずいつでも水を造ることが出来る海水淡水化施設の建設を進めてきました。

同施設は平成8年度で完成し、平成9年4月から1日当たり4万の水を生産することが可能となりました。また、この施設は海水淡水化施設としては、国内最大規模であることから内外の注目を集めています。



海水淡水化施設の心臓にあたる逆浸透膜設備

海水淡水化の流れ

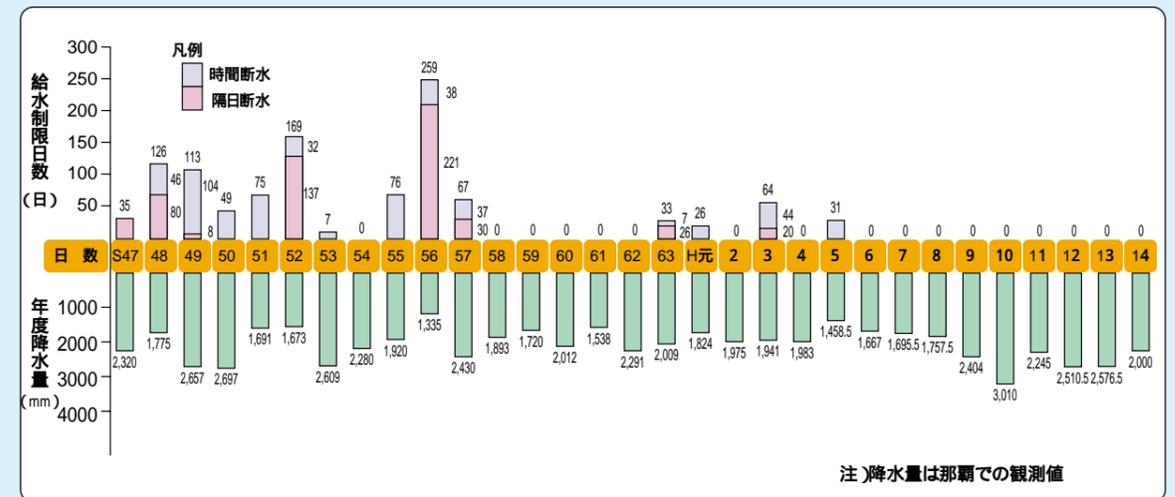


節水型社会の形成を目指して

水源に恵まれない本県においては、復帰後、国の多目的ダム開発を中心に、多くの水源開発が進められてきました。復帰後、毎年のように水不足が生じ給水制限が実施されていましたが、平成6年度以降は、この間の水源開発の成果や海水淡水化施設の完成で、給水制限がない安定した状況が続いています。

しかしながら、現時点において水源の約20%を不安定水源である河川水に頼る本県においては、なお、水不足への不安が存在しています。

渇水のない潤いのある暮らしを実現するためには、引き続き水源の開発を進めることと併せて、県民一人ひとりが限られた資源である水の有効利用と節水について心掛けることが不可欠となっています。



干上がるダム.....山城ダム



満水時



渇水時

(平成元年3月7日撮影)

ダムによる水源開発

本県の厳しい水事情を緩和するため、国や県では、ダム建設を進めてきました。これまでに福地ダムを始め、新川ダム、安波ダム、普久川ダム、辺野喜ダム、漢那ダム(国)、倉敷ダム(県)、金武ダム、山城ダム(企業局)の9つのダムが完成しています。これらのダム開発によって水事情はかなり緩和されましたが、今後の水需要の増大に対処するため、国や県では、さらなるダムの建設計画を進めています。

沖縄本島水源開発図



羽地ダム
(平成17年度供用開始予定)

ダムによる水源開発

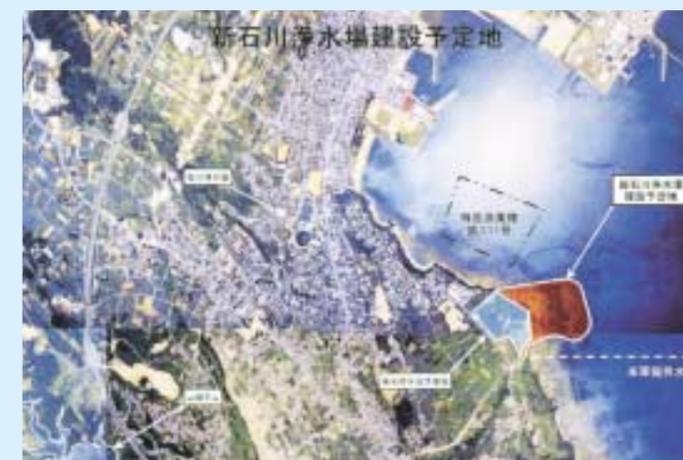
今後の主要事業

現在の石川浄水場は、送水量150,000m³/日の能力を持つ企業局の基幹浄水場として利用されてきましたが、建設後30数年が経過し老朽化が進んでいます。また、本県の水需要の増大に伴い、石川系統の送水については将来的に供給能力の増大が必要となっていますが、現在の浄水場の敷地が市街地に隣接していることから施設を拡張する余地がありません。このため、現在の老朽化した石川浄水場を石川市東恩納地先の埋立地に192,900m³/日の施設能力を持つ新石川浄水場として拡張移転することにしました。これにより、本県の水需要の増大に対しても安定した供給が確保できるようになります。

新石川浄水場建設



新石川浄水場完成予想図



新石川浄水場建設予定地



新石川浄水場建設状況

企業局の事業

西系列水源開発

昭和55年度より取り組んできた西系列水源開発事業は、本島北西部の13河川から豊水時に取水し、これを大保ダムと倉敷ダムに貯留したのち、安定的に取水するという事業です。

これまでに、倉敷ダムと12河川の開発を終え、大保ダムは現在建設中です。また、両ダムを結ぶ総延長約53kmの西系幹線導水施設については約8割が完成しており、現在、名護市字田井等から名護市字許田に至る約8.9kmの名護導水ルートを施工中です。



名護市西海岸地区工業用水道整備事業

本事業は、名護市久志から許田、幸地を経て屋部地区工場適地に至るまでの約18kmに工業用水道の専用配水管を整備するものであり、配水管沿線及び屋部地区工場適地の企業を給水対象に4,100m³/日の需要を見込み、平成21年度以降の給水開始を予定しております。

許田～幸地間のトンネル部分については、水道用水供給事業の名護導水ルートと共同施工を行っております。

今後の主要事業

水質情報について

浄水場の水質検査結果

	名護浄水場	石川浄水場	北谷浄水場	西原浄水場
一般細菌(個/ml)	0	0	0	0
大腸菌群(MPN/100ml)	0	0	0	0
総トリハロメタン(mg/l)	0.018	0.027	0.006	0.026
ナトリウム(mg/l)	20.8	19.5	30.9	17.8
塩素イオン(mg/l)	33.7	31.4	52.2	30.0
総硬度(mg/l)	54	42	155	35
pH値(-logH)	7.5	7.5	7.4	7.4
臭気	異常無	異常無	異常無	異常無
色度(度)	0.1	0.2	0.2	0.2
濁度	0.00	0.01	0.01	0.01

(注)久志浄水場は、一時沈でん処理場であるため除いています。

名護、石川及び西原浄水場は、通常処理(沈澱処理・砂ろ過処理)を行っています。また、北谷浄水場では、通常処理と高度浄水処理を行っています。

高度浄水処理とは、河川の浄化作用を応用した「生物処理」、強力な酸化力を持つオゾンを利用した「オゾン処理」、吸着能力に優れた活性炭を利用した「粒状活性炭処理」等の処理を行うことです。高度浄水処理を導入したことにより北谷浄水場では総トリハロメタンが低いことが検査結果より確認できます(13ページの高度浄水処理フロー図を参照)。

また、水質的な特徴として北谷浄水場の総硬度は他の浄水場に比べ高い値となっています。その原因としては、北谷浄水場の主な水源のある本島中部地域の地質特性(石灰岩)に由来します。

水質検査結果については、毎年水質年報を発行しており、各市町村水道事業体、図書館等公共機関に送付してありますので、詳細な内容についてはそれをご参照下さい。

工業用水の水質基準

沖縄県企業局では、水道用水供給事業だけではなく、工業用水の供給も行っています。

現在、久志浄水場で沈澱処理した水を各工場等へ送水しています。工業用水の水質基準は下表のとおりです。

工業用水の水質基準(沖縄工業用水道供給規定)

水温(°C)	濁度(ppm)	pH(-logH)	アルカリ度(ppm)	硬度(ppm)	蒸留残留物(ppm)	塩素イオン(ppm)	鉄(ppm)
30以下	20以下	6.5~8.0	75以下	120以下	250以下	80以下	3.0以下

おいしい水とは？

「おいしい水」の条件には個人差がありますが、次のような水質的な条件があります。

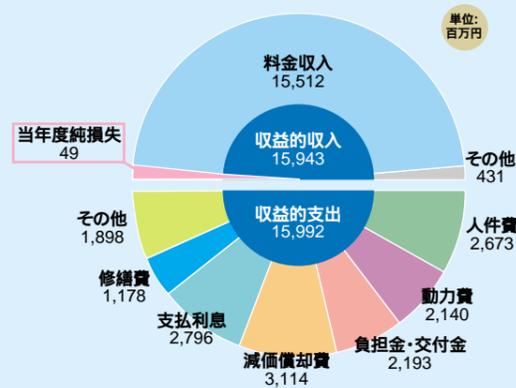
- 蒸発残留物** 主にミネラルの含有量を示し、量が多いと苦み、渋み等がまし、適度に含まれると、こくのあるまろやかな味がします。
- 硬度** ミネラルの中で量的に多いカルシウム、マグネシウムの含有量を示し、硬度の低い水は癖が無く、高いと好き嫌いができます。カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦みをまします。
- 残留塩素** 水にカルキ臭を与え、濃度が高いと水の味をまずくします。
- 水温** 夏に水温が高くなると、あまりおいしくないと感じられます。冷やすことによりおいしく飲めます。

出典:「水道のあらまし」(社)日本水道協会

水質情報について

平成14年度決算

水道事業会計決算

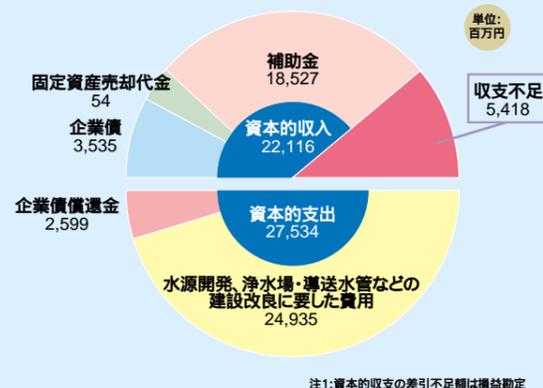


収益的収入及び支出(税抜き)

水道用水供給事業は、県内26市町村及び1企業団に対し水道用水を151,723,942m³供給しました。

総収益は、料金収入の減少等により、159億4,307万7,653円で前年度と比べ1.53%減り、総費用は、修繕費等の増加により前年度と比べ1.03%増えて、

159億9,250万8,510円でした。その結果、4,943万857円の赤字となりました。



資本的収入及び支出(税込み)

主な建設工事は、前年度に引き続き、西系列幹線導水施設工事、新石川浄水場埋立護岸工事及び石川～上間送水管布設工事等を実施しました。

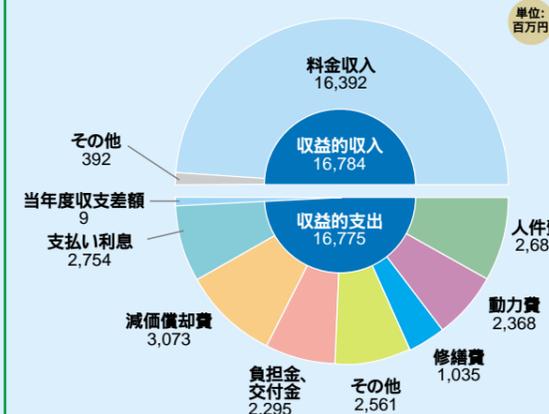
また、これらの施設の建設と並行して、久志浄水場特高受変電設備改良工事、北谷浄水場薬注機械設備改良工事及び北谷浄水場(硬度低減化)設備改良工事等を実施しました。

注1:資本的収支の差引不足額は損益勘定留保資金等で補填しました。

平成14年度決算

平成15年度予算

水道事業会計予算

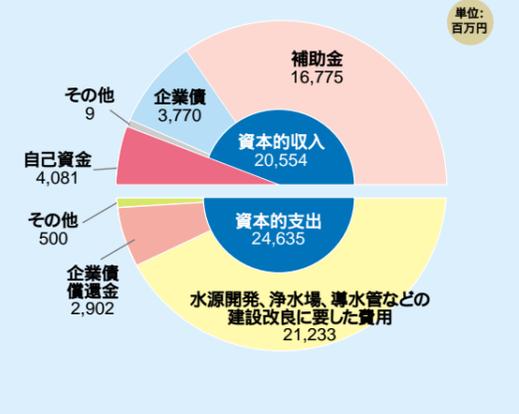


収益的収入及び支出

水道用水供給事業は、県内26市町村及び1企業団に1日平均41万7千m³を予定しています。

収益的収入は、料金収入が全体の97.7%を占めていて、その他は他会計補助金、預金利息等で2.3%となっています。

収益的支出は、人件費16.0%、負担金・交付金13.7%、減価償却費18.3%、支払利息が16.4%、動力費14.1%、修繕費6.2%、その他で15.3%となっています。



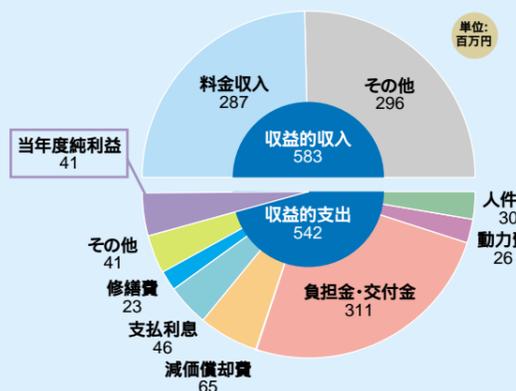
資本的収入及び支出

資本的収入は、補助金が81.6%を占めています。これはダム建設負担金、水源施設及び用水供給施設整備事業費等の補助金です。また、補助事業費の一部を自己財源で補うため、企業債が18.3%を占めています。

資本的支出は、水源開発、浄水場、導水管などの建設改良に要した費用が86.2%、企業債償還金が11.8%となっています。

平成15年度予算

工業用水道事業会計決算



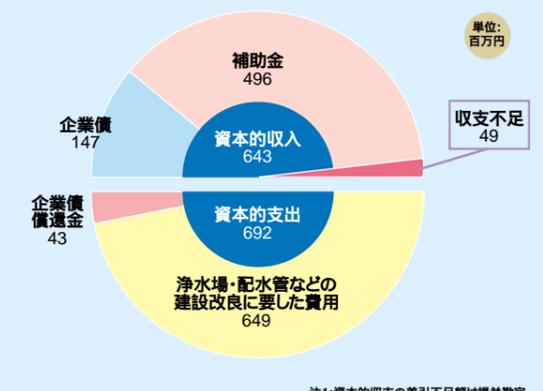
収益的収入及び支出(税抜き)

収益的収入及び支出

工業用水道事業は県内72事業所に対し5,723,267m³の工業用水を供給しました。

総収益は、料金収入の伸び等により、5億8,316万3,477円で前年度と比べ7.84%増え、総費用は、修繕費等の減少により前年度と比べ1.67%減り、5億4,242万7,396円でした。

その結果、4,073万6,081円の黒字となりました。

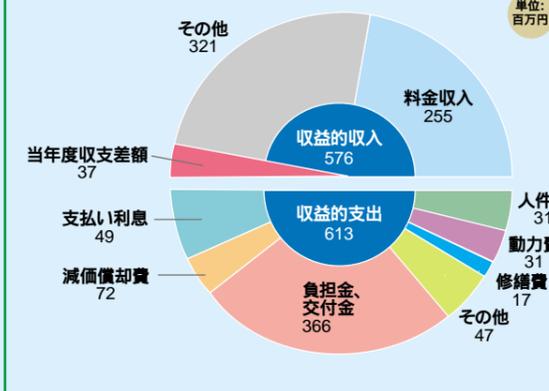


資本的収入及び支出(税込み)

主な建設工事は、前年度に引き続き、久志～屋部工業用水配水管布設工事等を実施しました。また、老朽化施設の機能回復を図るため、久志浄水場特高受変電設備改良工事等を実施しました。

注1:資本的収支の差引不足額は損益勘定留保資金等で補填しました。

工業用水道事業会計予算

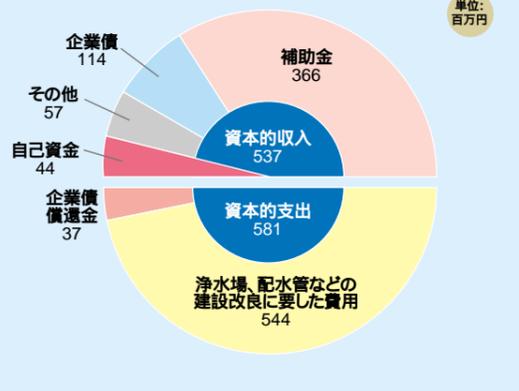


収益的収入及び支出

工業用水道事業は、金武湾、中城湾新港地区及び糸満市の工業団地等にある71事業所に1日当たり約1万8千m³の給水を予定しています。

収益的収入は、料金収入が全体の44.3%を占めています。その他は、他会計補助金、預金利息等で55.7%となっています。

収益的支出は、人件費が5.1%、負担金・交付金59.7%、減価償却費等11.7%、支払利息が8.0%、動力費5.1%、修繕費2.8%、その他で7.6%となっています。



資本的収入及び支出

資本的収入は、補助金が68.2%を占めています。これは工業用水道建設及び改築事業費などの補助金です。

また、補助事業費の一部を自己財源で補うため、企業債が21.2%を占めています。

資本的支出は、浄水場、配水管などの建設改良に要した費用が93.7%、企業債償還金が6.3%となっています。

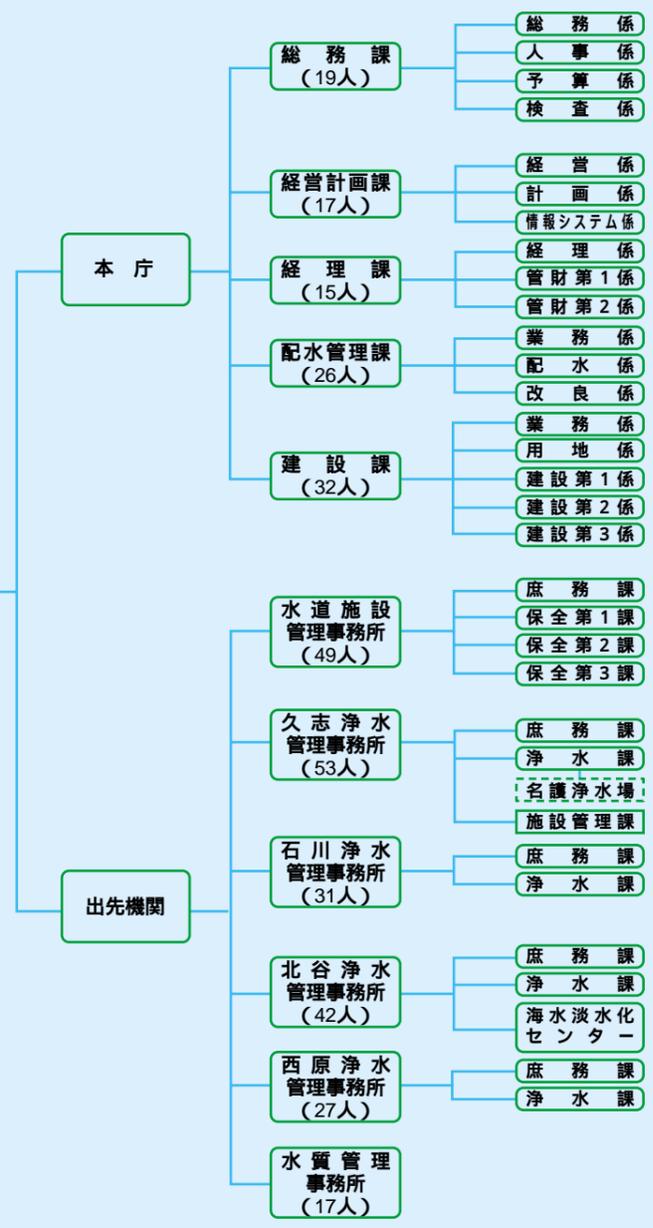
企業局組織図

職員定数 331人
平成15年4月1日現在
公営企業管理者を除く

(公営企業管理者)
企業局長
(1人)

企業技監
(1人)

次長
(2人)



名称	所在地	郵便番号	電話番号	FAX
総務課	那覇市泉崎1-2-2	900-8570	098-866-2803	098-866-2819
経営計画課	"	"	098-866-2805	098-866-7495
経理課	"	"	098-866-2806	098-866-8060
配水管理課	"	"	098-866-2810	098-866-2811
建設課	"	"	098-866-2814	098-861-5799
水道施設管理事務所	沖縄市山里2-4-20	904-0033	098-932-0656(代)	098-933-9320
久志浄水管理事務所	名護市字久志1100	905-2173	0980-55-2742	0980-55-2925
名護浄水場	名護市大北3-28-36	905-0019	0980-53-2633	0980-52-6214
石川浄水管理事務所	石川市字石川2565	904-1106	098-964-3257(代)	098-965-3632
北谷浄水管理事務所	北谷町字宮城1-2-7	904-0113	098-936-7796(代)	098-926-1591
海水淡水化センター	"	"	098-936-5257	098-936-5276
西原浄水管理事務所	西原町字小那覇1336	903-0103	098-945-4404(代)	098-946-2011
水質管理事務所	北谷町字宮城1-2-7	904-0113	098-936-7797(代)	098-936-7351

企業局組織図

企業局ホームページの紹介

企業局ホームページの紹介

沖縄県企業局では、水道用水供給事業、工業用水道事業の広報の一環として、平成13年4月から一般向けに『企業局ホームページ』、子ども向けに『おきなわの水』を開設しました。ホームページで情報を発信することにより、県民への情報を正確かつ迅速に提供し、より一層のサービスの向上に努めていきます。また、子ども向けホームページは、インターネット学習等の情報化時代の要望に応え、県内の児童・生徒はもとより全国に発信することにより、水道学習に必要な知識を提供していきます。

一般向けホームページ

<http://www.eb.pref.okinawa.jp/>



- 事業概要
 - 水道用水供給事業
 - 工業用水道事業
- 施設概要
 - 企業局の主要施設紹介
 - 水源
 - ダム・河川等の水源紹介
 - 水源・水質情報
 - ダムの貯水率(月～金曜日、正午更新)
 - 浄水場の水質データの紹介
 - 水道資料館
 - 企業局の歴史紹介

子ども向けホームページ

<http://www.eb.pref.okinawa.jp/kids/>



- 水の旅
 - 水源地から家庭までの水の流れを紹介
 - 水に学ぶ
 - 水の歴史や節水について
 - 水と遊ぶ
 - 沖縄の川の紹介
 - 企業局の仕事
 - 企業局の業務紹介
 - クイズ、質問コーナー

水・貴重な資源



平成15年度版

編集・発行

沖縄県企業局 経営計画課

〒900-8570 那覇市泉崎 1丁目2番2号

TEL:098-866-2805

FAX:098-866-7495

2003年10月発行